

# 令和7年産 夢つくし

( 5月13~18日 播種 ) 栽培 暦  
( 6月5~10日頃 田植え )

北九州普及指導センター  
J A 北 九

月別	5月		6月			7月			8月			9月						
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
水管理																		
生育ステージ	5月13~18日頃 <b>播種</b> 播き 1箱当り 50g		6月5~10日頃 <b>田植</b> 3株6坪当り 4本植え			-35日 -30日 -25日 -20日 -10日 0 有効分けつ終期 穂首分化期 幼穂形成期			8/12頃 出穂期 穂揃期			<b>刈取</b> 成熟期 9/16日頃						
管理のポイント	<p>良食味対策に けい酸加里 40kg</p> <p>基肥 きたきゅう 48 ベスト 44</p> <p>田植 深植防止</p> <p>除草剤施用</p> <p>補植苗の除去</p> <p>良食味対策に けい酸加里 20kg</p> <p>溝切り</p> <p>中干し</p> <p>穂肥 NK2号 幼穂 3mm 15kg</p> <p><b>最も水が必要な時期!</b></p> <p>○ 落水はなるべく遅く ○ 収穫後早めの耕起 ○ 土づくり (ヒメトビウンカ対策) ① 土壌改良資材施用 ② 堆肥投入 2t アヅミンの投入 40kg</p>																	
病害虫	<p>《栽培注意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ いもち病の常発地や野菜後等での栽培は基肥を減肥し、追肥で調整する。</li> <li>☆ 早植えは、高温障害により品質低下となるので避ける。</li> <li>☆ 倒伏防止の為、過剰施肥に注意する。</li> <li>☆ 出穂2週間前までに周辺雑草を除草しカメムシ類の本田への侵入を防ぐ。</li> </ul> <p>トビイロウンカ カメムシ類 ウンカ類 紋枯病 穂首いもち 斑点米カメムシ (イネカメムシ) コブノメイガ ウンカ類 (補正)</p> <p>葉いもち (ジヤンボタニシ) スクミリンゴカイ イネミズウシ 葉いもち・ウンカ</p> <p>白カビ 苗立枯病 シンガレセンチュウ ごま葉枯れ病 いもち病 ばか苗病</p>																	
重点防除農薬	<p>育苗管理参照</p> <p>箱剤 フルスロツトル箱剤</p> <p>初中期一発除草剤 アピログロウM ラオウ1キログラム サラブレッドG サラブレッドG ウイニングランジャンボ</p> <p>※ 移植後落水・田面の均一化 ※ 発生が無い場合圃場確認 ※ 発生が確認された場合は防除 ※ 野菜後や高温多雨時は注意</p> <p>必須① アルバリント粉剤DL アルバリント顆粒水溶剤 スタークル豆つぶ ※ 発生パターンにより補正防除</p> <p>必須② ゴウケツモンスター粒剤 ブラシントレバリダ粉剤DL</p> <p>液剤 (ヘリ防除) ダブルカットバリダフロアブル エクシードフロアブル ※ 出穂後の畦畔除草はしない</p> <p>航空 スタークル液剤10 エミリアフロアブル スタークル豆つぶ エクシードフロアブル エクシード粉剤DL</p> <p>《防除注意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 稲の開花期防除 (カメムシ) は、ミツバチへの影響が考えられます。近くで養蜂が行われている場合は、稲の開花期には農薬の散布を避けましょう。</li> <li>☆ 散布時期 必須①は、出穂前散布 必須②は、穂揃い期後散布 農薬散布時はドリフトに注意する!</li> </ul>																	
※ 農薬成分数	④	③	④	④	④	④	④	③	①	①	①	③	③	①	①	①	①	①

※減・減栽培夢つくしについては、別途、栽培基準作成